

厚生労働科学研究費補助金

新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

平成15年度 総括研究報告書

主任研究者 倉田 毅

平成16(2004)年 3月

目 次

I. 総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究 ----- 1

倉田 毅

(資料) ①平成15年度新規採択課題

②平成15年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針

③平成15年度終了課題

④平成15年継続課題

⑤平成16年度新規採択課題

⑥平成16年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針

II. 分担研究報告

1. 新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究 (分担報告) ----- 8

倉根 一郎

田代 真人

田口 文広

森川 茂

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）

総括研究報告書

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

主任研究者 倉田毅 国立感染症研究所 副所長・企画調整主幹併任

研究要旨

新興・再興感染症研究の専門家からなる委員会を設け、新興・再興感染症研究事業の適正かつ円滑な実施を図った。

分担研究者

倉根一郎（国立感染症研究所）
田代真人（国立感染症研究所）
田口文広（国立感染症研究所）
森川茂（国立感染症研究所）

A. 研究目的

新興・再興感染症研究事業を効果的に実施するためには、適切な課題の設定、最適な研究者の選考、公正な研究費の配分、そして厳密な研究成果の評価が不可欠であり、感染症研究の専門家からなる委員会でこれらを行う。

B. 研究方法

新興・再興感染症研究の専門家から構成される評価委員会（以下「評価委員会」という。）を組織し、1）研究者の選考及び研究費の配分審査の決定、2）研究課題の設定及び3）研究成果の評価を行った。

C. 研究結果

- 1) 平成15年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針を策定した。
- 2) 平成15年度研究終了課題の事後評価を行った。
- 3) 平成15年度継続研究課題の中間評価を行った。
- 4) 平成16年度新興・再興感染症研究事業における課題採択方針を策定した。

平成15年度新規採択課題

No.	主任研究者	所属施設	職名	研究課題名
1	渡邊 治雄	国立感染症研究所細菌第一部	部長	食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究
2	谷口 清州	国立感染症研究所感染症情報センター第一室	室長	効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論の開発に関する研究
3	森 亨	(財)結核予防会結核研究所	所長	小児結核及び多剤耐性結核の予防、診断、治療における技術開発に関する研究
4	森島 恒雄	岡山大学大学院医歯学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症の発症因子の解明と治療及び予防方法の確立に関する研究
5	田代 真人	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	インフルエンザパンデミックに対する危機管理体制と国際対応に関する研究
6	小野寺 昭一	東京慈恵会医科大学	教授	性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究
7	神谷 正男	北海道大学大学院獣医学研究科寄生虫学教室	教授	動物由来寄生虫症の流行地拡大防止対策に関する研究
8	太田 伸生	名古屋市立大学大学院医学研究科宿主寄生体関係学	教授	輸入蠕虫性疾患の監視と医療対応整備に関する研究
9	池 康嘉	群馬大学大学院医学系研究科	教授(薬剤耐性菌実験施設長)	新型の薬剤耐性菌のレファレンス並びに耐性機構の解析及び迅速・簡便検出法に関する研究
10	荒川 宣親	国立感染症研究所細菌第二部	部長	薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究
11	倉辻 忠俊	国立国際医療センター研究所	副所長	院内感染の発症リスクの評価及び効果的な対策システムの開発に関する研究
12	吉川 泰弘	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	輸入動物に由来する新興感染症侵入防止対策に関する研究
13	武田 直和	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	食品由来のウイルス性感染症の検出法の高度化、実用化に関する研究
14	増澤 俊幸	静岡県立大学薬学部	助教授	回帰熱、レプトスピラ等の希少輸入細菌感染症の実態調査及び迅速診断法の確立に関する研究
15	向井 徹	国立感染症研究所ハンセン病研究センター病原微生物部	室長	ハンセン病の早期診断・薬剤耐性・ワクチンに係る新技術の戦略的開発及び発症状況把握に関する研究
16	国包 章一	国立保健医療科学院水道工学部	部長	クリプトスポリジウム等による水系感染症に係わる健康リスク評価及び管理に関する研究(クリプトスポリジウム症等感染リスクの評価手法の確立に関する研究)
17	倉根 一郎	国立感染症研究所ウイルス第一部	部長	節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究
18	小林 陸生	国立感染症研究所昆虫医学部	部長	感染症媒介ベクターの実態、生息防止対策に関する研究
19	神山 恒夫	国立感染症研究所獣医科学部第一室	室長	愛玩動物の衛生管理の徹底に関する研究
20	岡部 信彦	国立感染症研究所感染症情報センター	センター長	水痘、流行性耳下腺炎、肺炎球菌による肺炎等の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究
21	加藤 達夫	聖マリアンナ医科大学小児科学	教授	ポリオ及び麻疹の現状とその予防接種の効果に関する研究
22	狩野 繁之	国立国際医療センター研究所適正技術開発・移転研究部	部長	マラリアの感染予防及び治療に関する研究
23	佐々木 次雄	国立感染症研究所細菌第二部第二室	室長	百日咳菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ等の臨床分離菌の収集と分子疫学的解析に関する研究

平成15年度新興・再興感染症研究事業における採択方針

課題番号	公募研究課題の内容
15090101	食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究
15090201	効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論の開発に関する研究
15090301	小児結核及び多剤耐性結核の予防、診断、治療における技術開発に関する研究
15090401	インフルエンザ脳症の発症因子、予防及び治療に関する研究
15090501	新型インフルエンザ対策に関する総合研究
15090601	性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究
15090701	動物由来寄生虫感染症の流行地域拡大防止対策に関する研究
15090801	輸入蠕虫疾患の疫学及び予防に関する研究
15090901	新型の薬剤耐性菌のレファレンス並びに耐性機構の解析及び迅速・簡便検出法に関する研究
15091001	薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究
15091101	院内感染の発症リスクの評価及び効果的な対策システムの開発等に関する研究
15091201	輸入動物に由来する新興感染症侵入防止対策に関する研究
15091301	食品由来のウイルス性感染症の検出法の高度化、実用化に関する研究
15091401	回帰熱、レプトスピラ等の希少輸入細菌感染症の実態調査及び迅速診断法の確立に関する研究
15091501	ハンセン病の早期診断・薬剤耐性・ワクチンに係る新技術の戦略的開発及び発症状況把握に関する研究
15091601	クリプトスポリジウム等による水系感染症に係る健康リスク評価及び管理に関する研究
15091701	節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究
15091801	感染症媒介ベクターの実態、生息防止対策に関する研究
15091901	愛玩動物の衛生管理の徹底に関する研究
15092001	水痘、流行性耳下腺炎、肺炎球菌による肺炎等の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究
15092101	ポリオ及び麻疹の現状とその予防接種の効果に関する研究
15092201	マラリアの感染予防及び治療に関する研究
15092301	百日咳菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ等の臨床分離菌の収集と分子疫学的解析に関する研究
15092401	その他新興感染症及び再興感染症に係る疫学的研究並びに予防、診断及び治療に関する研究であって、行政的に重要性及び緊急性が特に高いもの

平成15年度終了課題

No.	主任研究者	所属施設	職名	研究課題名
1	中村 好一	自治医科大学保健科学講座 公衆衛生学部門	教授	経口細菌感染症の広域的・散発的発生時の実地疫学的・ 調査手法等の開発に関する研究
2	牧野 正彦	国立感染症研究所病原微生物部	部長	ツベルクリン検査、BCG等に代わる結核等の抗酸菌症 に係る新世代の診断技術及び予防技術の開発に関する研究
3	高島 郁夫	北海道大学大学院獣医学研究科	教授	野生げっ歯類及びダニ類に由来する感染症の予防、診断 及び疫学に関する研究
4	清野 宏	東京大学医科学研究所	教授	粘膜ワクチン開発の基礎となるアジュバントに関する研究
5	山田 章雄	国立感染症研究所獣医科学部	部長	動物由来感染症対策としての新しいサーベイランス システムの開発に関する研究

平成15年継続課題

No.	主任研究者	所属施設	職名	研究課題名
1	渡邊 治雄	国立感染症研究所細菌第一部	部長	食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究
2	谷口 清州	国立感染症研究所感染症情報センター第一室	室長	効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論の開発に関する研究
3	森 亨	(財)結核予防会結核研究所	所長	小児結核及び多剤耐性結核の予防、診断、治療における技術開発に関する研究
4	森島 恒雄	岡山大学大学院医歯学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症の発症因子の解明と治療及び予防方法の確立に関する研究
5	田代 真人	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	インフルエンザパンデミックに対する危機管理体制と国際対応に関する研究
6	小野寺 昭一	東京慈恵会医科大学	教授	性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究
7	神谷 正男	北海道大学大学院獣医学研究科 寄生虫学教室	教授	動物由来寄生虫症の流行地拡大防止対策に関する研究
8	太田 伸生	名古屋市立大学大学院医学研究科 宿主寄生物関係学	教授	輸入蠕虫性疾患の監視と医療対応整備に関する研究
9	池 康嘉	群馬大学微生物学教室	教授(薬剤耐性菌実験施設長)	新型の薬剤耐性菌のレファレンス並びに耐性機構の解析及び迅速・簡便検出法に関する研究
10	荒川 宣親	国立感染症研究所細菌第二部	部長	薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究
11	倉辻 忠俊	国立国際医療センター研究所	副所長	院内感染の発症リスクの評価及び効果的な対策システムの開発に関する研究
12	吉川 泰弘	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	輸入動物に由来する新興感染症侵入防止対策に関する研究
13	武田 直和	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	食品由来のウイルス性感染症の検出法の高度化、実用化に関する研究
14	増澤 俊幸	静岡県立大学薬学部	助教授	回帰熱、レプトスピラ等の希少輸入細菌感染症の実態調査及び迅速診断法の確立に関する研究
15	向井 徹	国立感染症研究所ハンセン病研究センター病原微生物部	室長	ハンセン病の早期診断・薬剤耐性・ワクチンに係る新技術の戦略的開発及び発症状況把握に関する研究
16	国包 章一	国立保健医療科学院水道工学部	部長	クリプトスポリジウム等による水系感染症に係わる健康リスク評価及び管理に関する研究(クリプトスポリジウム症等感染リスクの評価手法の)
17	倉根 一郎	国立感染症研究所ウイルス第一部	部長	節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究
18	小林 睦生	国立感染症研究所昆虫医科学部	部長	感染症媒介ベクターの実態、生息防止対策に関する研究
19	神山 恒夫	国立感染症研究所獣医学部第一室	室長	愛玩動物の衛生管理の徹底に関する研究
20	岡部 信彦	国立感染症研究所感染症情報センター	センター長	水痘、流行性耳下腺炎、肺炎球菌による肺炎等の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究
21	加藤 達夫	聖マリアンナ医科大学小児科学	教授	ポリオ及び麻疹の現状とその予防接種の効果に関する研究
22	狩野 繁之	国立国際医療センター研究所適正技術開発・移転研究部	部長	マラリアの感染予防及び治療に関する研究
23	佐々木 次雄	国立感染症研究所細菌第二部第二室	室長	百日咳菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ等の臨床分離菌の収集と分子疫学的解析に関する研究
24	岡田 全司	国立療養所近畿中央病院 臨床研究センター結核研究部	部長	結核菌症の病態解明に基づく新たな治療法等の開発に関する研究: [抗結核キラーTリンパ球・結核殺傷蛋白による病態解明に基づく結核ワクチン(サブユニット・DNA・リコンビナントBCG-ワクチン)・化学療法剤の開発による新しい治療・予防・診断法]
25	竹内 勤	慶應義塾大学医学部	教授	赤痢アメーバ症等寄生虫症ハイリスク群に対する予防法等の開発に関する研究
26	山本 茂貴	国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部	部長	ビブリオ・バルニフィカスによる重篤な経口感染症に関する研究
27	島田 馨	東京専売病院	病院長	生物テロに使用される可能性の高い病原体による感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究
28	山本 保博	日本医科大学附属病院 高度救命救急センター	主任教授、 部長	国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究
29	大久保 一郎	筑波大学医学部医学社会学	教授	大規模感染症発生時における行政機関、医療機関等の間の広域連携に関する研究
30	石川 信克	(財)結核予防会結核研究所	副所長	都市部における一般対策の及びにくい特定集団に対する効果的な感染症対策に関する研究
31	廣田 良夫	大阪市立大学大学院 医学研究科公衆衛生学	教授	インフルエンザ予防接種のEBMIに基づく政策評価に関する研究

平成16年度新規採択課題

No.	主任研究者	所属施設	職名	研究課題名
1	牧野 正彦	国立感染症研究所病原微生物	部長	ツベルクリン検査、BCG等に代わる結核等の抗酸菌症に係る新世代の診断技術及び予防技術の確立
2	高島 郁夫	北海道大学大学院獣医学研究	教授	野生げっ歯類及び節足動物に由来する感染症の診断、疫学及び予防に関する研究
3	清野 宏	東京大学医科学研究所	教授	粘膜ワクチン開発の基礎となるアジュバントに関する研究
4	山田 章雄	国立感染症研究所獣医科学部	部長	動物由来感染症のサーベイランス手法の開発に関する研究
5	谷原 真一	島根大学医学部	教授	わが国における飲食に起因する経口感染症の被害推計の精密化に関する研究
6	上原 至雅	国立感染症研究所生物活性物質部	部長	輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究
7	宮村 達男	国立感染症研究所ウイルス第二部	部長	ポリオ野生株ウイルスの封じ込め対策に関する研究
8	高山 直秀	東京都立駒込病院小児科	部長	国内の患者症例報告に基づく動物由来感染症の実態把握及び今後の患者症例報告収集と検索システムの開発に関する研究
9	田口 文広	国立感染症研究所ウイルス第三部	主任研究官	SARSコロナウイルスに対するワクチン開発に関する研究
10	菅村 和夫	東北大学大学院医学系研究科	教授	SARSウイルス感染阻止化合物の探索
11	森川 茂	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	SARSコロナウイルス検査法の精度向上及び迅速化に関する研究
12	伊東 恭悟	久留米大学医学部	教授	ペプチド抗体によるSARS(重症急性呼吸器症候群)診断の迅速化
13	丸井 英二	順天堂大学医学部	教授	大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究
14	大日 康史	国立感染症研究所感染症情報センター	主任研究官	SARS、バイオテロ、インフルエンザ対策としてのリアルタイム・アウトブレイク・サーベイランス・システム構築のための基礎的研究
15	切替 照雄	国立国際医療センター研究所	部長	ヒト型抗SARS中和抗体の開発研究
16	笹月 健彦	国立国際医療センター研究所	所長	SARSの感染・発症・重症化の分子機構
17	森本 金次郎	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	ウイルスベクターを応用したワクチン開発迅速化のための基盤的技術開発の研究

平成16年度新興・再興感染症事業における課題採択方針

- (1) ツベルクリン検査、BCG等に代わる結核等の抗酸菌症に係る新世代の診断技術及び予防技術の開発に関する研究（16170101）
- (2) 野生げっ歯類及び節足動物に由来する感染症の診断、疫学及び予防に関する研究（16170201）
- (3) 粘膜ワクチン開発の基盤的な技術開発に関する研究（16170301）
- (4) 動物由来感染症のサーベイランス手法の開発に関する研究（16170401）
- (5) わが国における飲食に起因する経口感染症の被害推計の精密化に関する研究（16170501）
- (6) 輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究（16170601）
- (7) ポリオ野生株ウイルスの封じ込め対策に関する研究（16170701）
- (8) 国内の患者症例報告に基づく動物由来感染症の実態把握及び今後の患者症例収集と検索システムの開発に関する研究（16170801）
- (9) SARSコロナウイルスに対するワクチン開発に関する研究（16170901）
- (10) SARSコロナウイルス検査法の精度向上及び迅速化に関する研究（16171001）
- (11) 大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究（16171101）
- (12) 国際的な感染症まん延防止対策を講じるためのシステム構築に関する研究（16171201）
- (13) ワクチンの迅速な開発のための基盤的な技術開発に関する研究（16171301）
- (14) 診断キットの迅速な開発のための基盤的な技術開発に関する研究（16171401）

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）

分担研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究（分担報告書）

分担研究者	倉根一郎	国立感染症研究所	ウイルス第一部部長
	田代真人	国立感染症研究所	ウイルス第三部部長
	田口文広	国立感染症研究所	ウイルス第三部第五室長
	森川茂	国立感染症研究所	ウイルス第一部第一室室長

研究要旨

研究評価法に関する文献、及び他の研究事業の評価方法に関する資料を収集・分析し、新興・再興感染症研究事業のより効果的な評価方法について検討した。

A. 研究目的

新興・再興感染症研究事業においては、学術性のみならず、その研究結果を新興・再興感染症対策に反映しうる、厚生労働行政への貢献度についても適切に評価する必要がある。そのため、「新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究」において、実際に評価委員会を行い、適切な評価のあり方について検討することを目的とした。

B. 研究方法

研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析を行い、平成15年度新興・再興感染症研究事業の事前評価委員会及び中間・事後評価委員会の運営

を通じて、計画の妥当性、研究継続能力、厚生労働行政への貢献度等を中心に、適切な評価のあり方について検討した。また、研究協力体制の構築も重要であることから、海外においても調査を実施した。「アセアンおよび3カ国による会議」（マレーシア）に倉根が、「国際新興感染症学会」（米国）に森川が、出席し情報収集・調査を行った。

C. 研究結果

一般的に、研究の評価を行う際には、評価の時期、評価の目的、評価の項目（対象）、評価を行う者の選定、評価方法等について検討し、それぞれの研究の特性に適した組み合わせを用いることにより行われる。平成15年度

新興・再興感染症研究事業においては、昨年度に続き、事前評価委員会及び中間・事後評価委員会を実施し、その実施にあたっては、他の研究事業との比較・検討、及び過去の問題点等を踏まえ、改善を試みた。

D. 結論

新興・再興感染症研究事業の評価において、研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析、及び評価委員会の運営を通して、より適切な評価を行うための手法についての有益な所見が得られた。